多読学習の現状

樟蔭中学校・高等学校英語科常勤講師　八木岳彦

1.　はじめに

昨年度の「樟蔭学園英語教育センターフォーラム第三号」でも発表した本校での多読学習の取り組みについて，今年度も引き続き紹介する。本校では，多読学習を週 1 時間（50 分授業）行っている。生徒は授業時間内に本をできるだけ多く読み，パソコンで M-Reader というサイトで，読んだ本に関するクイズを受ける。多読用の本として用意しているのは，Foundations Reading Library Level 1 ~ 7, Oxford Reading Tree Level 5 ~ 9, Building Blocks Library Level 4 ~ 9, I Can Read シリーズ, Penguin Active Reading, Henry & Mudge シリーズなど，学習者向けの Graded readers や英語ネイティブの子ども向けのもので，約 1000 冊である。ここまでは昨年度と変わっていない状況である。昨年度から変わったことは，図書館を多読学習のできる環境にしたことである。図書館にも多読用の本を用意し，i-pad を使用してクイズを受けられるようにした。図書館に準備した本は，Penguin Kids Readers や Step into Reading であり，中学生でも読みやすいものである。図書館に多読コーナーを設置する最大の利点は，授業外でも多読学習に取り組むことができるということである。授業内だけの活動では，言語習得に必要不可欠な多量のインプットを確保することが困難であるからである。まだ本格的に図書館での活動が進んでいないため，今回はこれまでの取り組みをまとめて報告する。

2.　多読学習の状況

本校の高校 1 年生（児童教育コース・健康栄養コース・進学コース）の 6 クラスの多読学習についてまとめる。多読学習を始めた 5 月頃から 11 月までの約半年間の状況である。1 年生全体の総語数 (1) の平均は 8,228 語で，下の表 1 はクラス別にしたものである。

表 1.　各クラスの学習状況

クラス	人数	平均総語数	範囲
1	41	5395	1416 - 22904
2	40	13646	1100 - 31507
3	37	8881	903 - 64687
4	36	5596	707 - 13482
5	35	6339	741 - 21279
6	35	9508	365 - 26419

クラス 2 の平均総語数が，他のクラスの平均総語数と比べてかなり多い結果になっている。これは，もともとの英語力の差によるものであると考えられる。クラス 2 は，通常の中間考査や期末考査の成績でも他のクラスよりも良い。クラス 3 の最多総語数が 64,687 語と飛びぬけている。この数字は，そもそも英語がネイティブと同レベルの生徒のものであるためである。この生徒を抜いた場合の範囲の最多総語数は 21,915 語であり，他のクラスと同等である。どのクラスにも共通して言えることは，英語のレベルに大きな差があるということである。総語数が 1,000 語に満たない生徒は，活動をしていないということでは決してなく，真剣に取り組んでいるにもかかわらず，英語がわからず理解できないのである。英語が得意な生徒や好きな生徒は，自ら進んでどんどん本を読んでいくが，英語が苦手な生徒には，教員の手助けや，より易しい英語の本を準備する必要があるだろう。

平均総語数から，どのようなことが言えるだろうか。1996 年に発表された現代英語教育を参考にすると，中学校でよく使われている New Horizon と高校でよく使われている Unicorn の総語数は，下の表 2 の通りである。中学 3 年間と高校 2 年間の 5 年間で，およそ 30,000 語読むことになる。（現在使用されている教科書では，もっと総語数は多いはずである。）

表 2.　中学校・高校で英語教科書に含まれる語数

中学		高校	
中 1	1,177 語	高 Ⅰ	11,686 語
中 2	2,511 語	高 Ⅱ	10,451 語
中 3	3,756 語		
計	7,444 語	計	22,137 語

全体の平均総語数は前述した通り 8,228 語で，まだまだ多読と呼べるほどの量にはなっていない。実際には，本を選んだり，クイズを受けたりする時間が必要なため，40 分程度しか本を読む時間はないのである。これが最大の課題である。この課題を解決するために，図書館を活用することが重要になってくるはずである。授業内活動から授業外活動への移行は必ずしなければならない。

この取り組みのよい点は，検定教科書のみの使用に比べると，生徒は多くの英語を読んでいる。また，この取り組みを楽しいと感じている生徒も多いのである。この取り組みは，工夫をしながら継続していくことが必要であろう。

3.　GTEC のスコア分析

ここで，GTEC の reading スコアを基に多読活動を検証してみる。本校の 1 年生は年に 2 回，GTEC を受けている。今回は，多読学習をしていない 2011 年度の 1 年生と多読学習している 2014 年度の 1 年生の 1 回目と 2 回目の reading のスコアを比較してみた。

表 3.

	1 回目	2 回目	1 と 2 回目の差
2011 年度の生徒	93	89	-4
2014 年度の生徒	99	101	+2

その結果，表 3 に示す通り，2011 年度の生徒より 2014 年度の生徒の方が，１回目と２回目ともに reading のスコアが高かった。また，1 回目と 2 回目を比べると，2011 年度の 1 年生の reading のスコアは 4 点下がっていたが，2014 年度の生徒は，2 点上がっていた。

今後は, GTEC のスコア比較だけでなく, reading speed など他の計測方法で，効果の検証をしていくことも必要であろう。

まとめ

本校での多読は 3 年目であるが，充実した多読学習にしていくために，これから図書館をどのように活用していくか，また生徒をどのように多読学習に引き込んでいくか，様々な仕掛けが重要になってくるのであろう。

（注）

---

(1) ここで示す総語数は，クイズに合格した本の語数の合計であり，本を読んだが不合格であった本の語数は含まない。